

前回の委員会で頂いた主なご意見と 対応方針について

— 資料1 —

前回のメンテナンス小委で頂いた主なご意見と対応方針(1)

【全体の方向性について】

No.	意見	対応	発言委員
1	施設台帳(法定台帳)と維持管理のデータベースの関係について、施設台帳が無くても見える化はできるが、施設台帳が整っていることが長い目でみると大事。両者は繋がっていることをわかりやすく示してほしい。	施設の点検結果や健全性の評価、補修・修繕の履歴などの情報は、将来の施設の改良や更新につながる密接な情報である旨記載。 〔資料2 p.7〕 4. (1)①	福岡委員
2	台帳整備は1丁目1番地で当然必要。今回はその次の2丁目2番地を議論しているが、1丁目1番地のところは復習的に(提言の)前の方に入れるべき。	施設台帳等の整備を確実に実施するとともに、最新の情報への更新作業を速やかに実施すべきである旨記載。 〔資料2 p.7〕4. (1)①	家田委員
3	データベースの構築は非常に大変なこと。第一段階として台帳、カルテの充実があり、次の段階としてロードマップをきちんと描き、一步一步目標をもって前進していくべき。	行程表を作成しフォローアップを行うなど、分野ごと、国・地方公共団体等ごとに実施していく旨記載。 〔資料2 p.13〕おわりに)	小林委員
4	直轄で技術力を駆使して行うこと、市町村でも行うことの切り分けをしっかりと考えてもらいたい。	現場においてメンテナンスサイクルを着実に回していくためには、当該構造物にかかる履歴等を把握し対応していくことが重要であり、現場における重要な情報を選別した現場のためのデータベースの構築を開始していくべきである旨記載。 〔資料2 p.5〕3. (1)①	福岡委員
5	欧米型のデータベースは、トップダウン、会計ベースで、日本ではこのようなシステムは動かない。日本では現場ベースで動かす、現場を支援するためのシステムをつくっていくことを初めにしっかり謳っておくべき。データベースを作るのと同時に業務の現効率化・簡素化を進めていく流れが必要。そのためのロードマップを。	現場における重要な情報を選別した現場のためのデータベースの構築を開始していくべきである旨記載。 〔資料2 p.5〕3. (1)①	小林委員
6	非常に細かい部分はそこまでお金をかけてやるかということもあるので、レベル別に無駄なく、既にあるデータも活用しながら、無駄のないお金の使い方をしていただきたい。	情報の共有化を図るにあたり、共有化すべき情報とは何か、これらの情報をどのように活用し公表していくかなどについて、労力やコストを勘案しながら優先順位を付けて検討していく必要がある旨記載。 〔資料2 p.6〕3. (3)③	井出委員

前回のメンテナンス小委で頂いた主なご意見と対応方針(2)

【データベースの構築の方向性について】

No.	意見	対応	発言委員
1	データの充実とデータベース化、共有化と見える化については、この前に議論された地方公共団体への支援、資格制度にも関係する。	情報の共有化、見える化は、点検・診断等に関する資格制度や国・都道府県等による市町村の支援方を軌道に乗せていく上でも、重要な要素となる旨記載。(【資料2 p.13】おわりに)	家田委員
2	見える化、共有化は資格制度とつながりをもって議論されるべきであることに触れてほしい。		福岡委員
3	点検結果をデータベース化するときは、通行不可、使用不可などの緊急的な措置のものは記載した方が、利用者としてはわかりやすいのでは。	施設の使用・利用等の判断に影響を与える重要な情報については、情報を把握した時点で速やかに記録するよう徹底を図る旨記載。 (【資料2 p.7】4. (1)②)	輿石委員
4	複数の者が同じような情報を集めるのは、トータル社会ではコストロスなので、業務に使えるデータベースを情報を厳選して共有化していくべき。共有する上では、データは誰のもので、誰がどういう目的で使って良いか、という条件を1つ1つ議論していくことを次のステップでは意識すべき。	情報の共有化に当たっては、情報の作成者、管理者、使用条件等について整理するよう努めるべきである旨記載。 (【資料2 p.9】4. (3)①)	梶浦委員
5	現場支援するためのデータベース、住民のため早く広く伝えるためのデータベースという観点が入るとスッキリする。	情報の共有化に当たっては、国民等に社会資本の現状を広く理解してもらう、施設管理者による現場作業を支援するなど情報の使用目的について十分に整理を行うことが重要である旨記載。 (【資料2 p.9】4. (3)①)	臼井委員
6	技術革新に対応できるよう、融通性を持ったデータベースとする必要がある。	データベースの構築にあたっては、今後の技術革新等に対応できるよう、融通性があるものとする必要がある旨記載。(【資料2 p.8】4. (1)④)	臼井委員
7	例えば3年後に今あるモノは本当に有効活用されているのかという検証が必要。	行程表を作成しフォローアップを行うなど、分野ごと、国・地方公共団等ごとに実施していく旨記載。 (【資料2 p.13】おわりに)	臼井委員

前回のメンテナンス小委で頂いた主なご意見と対応方針(3)

【情報の正確性について】

No.	意見	対応	発言委員
1	定性的な評価は検査する人により判断基準がずれることもある。ずれを一定の範囲内に収めるための仕組みが必要。技術開発だけでなく、日常点検の仕方の標準化、技術的指導や、国の研究所など専門の方が、実施状況を時々確認したり内容を摺り合わせたりすることが、データベース化の前提としてあっていいのではないか。	データ入力項目を設定する際には、施設管理者間で可能な限り記載項目の統一を図るべきである旨、併せて、健全性の評価などについて、施設管理者や点検者により認識のズレが生じないように努めていく必要がある旨記載。 （【資料2 p.7】4. (1)③）	輿石委員
2	農産物のトレーサビリティのように出来ないか。正確性の担保をしていく上で、いつ、誰が、どういう検査したのか分かるようにしておくとのではないか。	点検者や点検履歴等についても記録づけを徹底していく旨記載。 （【資料2 p.7】4. (1)②）	甲斐委員
3	設計図にはサイン(署名)をすることで重大な法的責任を負う。維持管理業務もこれからはそういった方向に位置づけるのだろう。		家田委員
4	情報の正確さの担保をどうするかが問題。特に悪いモノを良いといったときに大きな問題が生じる。	国民等に理解と支援をえるため、正しい情報の公表の積み重ねにより、国民等の信頼の構築を図るべきである旨記載。 （【資料2 p.5】3. (1)②）	大森委員
5	せっかく情報を出しても、改ざんのようなことがあっては困る。見える化というところの意味を持たせる原点は信頼であることを、最終的なまとめとしては何らか位置づけたい。		家田委員

前回のメンテナンス小委で頂いた主なご意見と対応方針(4)

【国民・地域住民への情報の見せ方について】

No.	意見	対応	発言委員
1	国民・地域住民に情報を共有化することについて、安心感というプラス面のことが言われているが、逆に共有化により不安が増すというマイナス面であることも考えられる。マイナス面をより噛み砕いてわかりやすく住民に対応していく必要がある。	健全性が著しく低い施設について、健全性の評価及び実施した措置などに関する情報をリスト化し公表する旨記載。 （【資料2 p.11】5. (2)①他）	中込委員
2	地域住民に不安を与えないためにも、情報は積極的に出すべきである。例えば福島県内の市町村では「見せる課」というのを作って積極的に情報公開し、安心感を提供している。		甲斐委員
3	悪いまま放置して事故がおこるような事態は避けなければならない、情報を伝えるだけでなく、直ちに対応する迅速さが求められる。		大森委員
4	アメリカ土木学会の評価はCやDなど非常に低い。行政や官庁が出す情報に対して、アメリカ人と日本人ではとらえ方が異なるので、特に安全に関する情報の出し方には議論が必要。		家田委員
5	施設の廃止・転用については、データを集めて一律の方法で廃止などを決定していいものかどうかも含めて議論が必要。	施設の転用・統廃合等の取り組み事例について、転用、統合等の例を先に提示。 （【資料2 p.9】4. (2)③）	福岡委員
6	「ただ見える」だけでなく、「見やすく見せる」ために、CIMという観点から三次元化を行っていくことを（提言に）入れてほしい。	CIMの活用にあたっては、点検・修繕履歴などの施設の維持管理に関する情報や施工時の品質情報などを三次元的に表現することにより、施設管理の効率化・高度化が図られ、生産性が向上されることが期待される旨記載。 （【資料2 p.10】4. (3)⑤）	矢吹委員

前回のメンテナンス小委で頂いた主なご意見と対応方針(5)

【国民・地域住民との関係性について】

No.	意見	対応	発言委員
1	共同点検というより、道路や河川等のそばに居る人からの、橋梁の亀裂、堤防漏水などの任意の情報を集めて活用するのがよいのではないか。	地域住民から提供される情報の受け取り体制の構築、その情報に対し地域住民にフィードバックする手法を整理すべきである旨記載。	木下委員
2	住民が国のポータルサイトに書いた意見が自治体に通じていない、ということが往々にして起こる。言葉を自動的に選別し、自治体に送られるような仕組みが考えられないか。	併せて、これらの情報を国や地方公共団体の間で円滑に共有していくよう努めていくべきである旨記載。 （【資料2 p.9】4. (2)④）	臼井委員

今後のスケジュール

